

近ノ内事遂ニ破裂シ支那十八省ノ生糸ハ騒乱ノ
直接ノ影響セシカ此時ニ當リ我日本人民が蒙ル所ノ
大切ナルセシカ此日ニ當リ我日本人民が蒙ル所ノ
影響大ナルセシカ勿論假令之ナシトスルモ三
ヶ月ノ間ケ月ナリ戰鬪ノ續ク限ラハ支那貿易ノ一
年ノ間入出港三百万圓決シテ小額ト云アベカラ
三ヶ月ノ四ヶ月ナリ此貿易ナ停止スル其損害ノ
大ナルハ固ヨリ論ナシタズト雖ニ又一方ヨリ考ル
ハ此三四ヶ月間支那產ノ生糸製茶ノ類ハ一切歐米ノ
市場ニ出ツルヲ能ハザルベク隨テ同市場ニ日本ノ生
糸製茶ノ需要忽カニ増加シ其價モ騰貴スベキガ故ニ
且其人民全體ヨリ海アル片ハ支那市場ニ失フ所ナ歐
米市場ニ回ルノ時制茶ノヒテ餘アルベシ故ニ貿易上
ノ患ナシ無事者ナ左マテ此戰鬪ナ厭忌スルノ理由ヲ
見ナシテソ遠隔海上ノ点ヨリ觀察スルモ一日支那政
府之御國ヲ嘗試ノ殺ハ天下復タ彼ノ琉球論ナロコス
者ナカタマク又被ノ韓鮮屯在ノ軍兵士八ノ姻キモ
倉皇本國ニ歸航シテ朝鮮八道支那人ノ隻影ナモ見ナ
ルニ至ルベキガ故ニ左マテ此戰鬪ナ厭忌スルノ理由
ナ見ナルベシ是我輩ガ西南事件ニ關シテ想起スル今
日ノ說ナリ他日詳報ナ得ナ更ニ詳論スル所アルベシ

雜報

○一章 聞きか記述せし如く 墓上より昨日午前九時頃、御用乘の徳大寺宮内賄ふて岩佐門前御宿泊の三侍従供奉せり同四十五分御朝かのち御先着ある小松北白川の兩宮鍋島式部頭伊達華族會議長其惣宮内官吏陸軍將校わは何れも整列して禮摺を奉迎され夫より順次射的天覽在せられ十二時御歩行みて彌生社へ成せ給ひ御食後暫時御休憩再び射的場へ出御宿順次よ天覽遊へされ是より天覽御見物を廻へり黄昏前還幸在せられて御用事務主任は北條氏黎、新田昌古、鴨居吉重、松平茂昭、新井晴簡、馬鹿原務と云ふ者に御見物を廻らし五十七種之貢品を講へりと云ふ。に付 墓上皇后宮より御賛育掛手御有住石ヒ始より同宮御附代人々へ御祝酒と聞へるといふ且御宮には愈來月中御前三年間なる堀川侍従といふ御内侍へ移りせ給ふよしむ水丸

系製茶ノ需要急カニ増加シ其價ヲ騰貴フニヤ
且其人民全體ヨリ財力アルナヘ支那市場ニ失フ所ナ歐
米等ニ用意シテ貿易ヒテ餘アルベシ故ニ貿易上
之處ニ移転テ左マテ此戰鬪ナ厭忌スルノ理由ヲ
見テルハシ支那海上ノ点ヨリ觀察スルモ一旦支那政
府之御國ヲ嘗取シ殺ハ天下復タ彼ノ琉球論ナロニス
者ナカムベク又彼ノ朝鮮屯仕ノ軍兵士人ノ姻ヤモ
倉皇本國ニ歸航シテ朝鮮八道支那人ノ隻影ナモ見ア
ルニ至ルベキガ故ニ左マテ此戰鬪ノ厭忌スルノ理由
ナ見アルベシ是我輩ガ西南事件ニ關シテ想起スル合
日ノ説ナリ他日詳報ナ得テ更ニ詳論スル所アルベシ

大切ナリベシ一品官物ノ時ニ當リ俄國海軍が支那
方面ニ出頭スレバサレハ勿論假令之ナシトスルモ三
ヶ月ノ間ケ月ナリ戰鬪ノ續ク限ラハ支那貿易ノ一
環節上モ一々弊アリテ候タズ日日本支那ノ貿易ハ
一套ノ體一入一出百万圓決シテ小額ト云フベカラ
本三ヶ月後四ヶ月ナリ此貿易ヲ停止スル其損害ノ
大ナルハ固ヨリ論六便タズト體ニ又一方ヨリ考ルキ
ヘ此三四ヶ月間支那產ノ生糸製茶ノ類ハ一切歐米ノ
市場ニ出ツルヲ能ハザルベク隨テ同市場ニ日本ノ生

レ近日ノ内事遂ニ破裂レ支那十八省ノ生靈ハ騒乱ノ不幸ニ化シセシカ此時ニ當リ我日本人民ガ蒙ル所ノ直接ノ禍焉ハ如何ナシベキヤ之ヲ今日ニ講スルト甚

○法官の獨立
本題事件の如きで現れる法の運営の問題は、實に多大なものである。本題事件は、實に、その點で、その他の事件と異なつて、その問題が、甚だ複雑である。本題事件は、實に、その他の事件と異なつて、その問題が、甚だ複雑である。本題事件は、實に、その他の事件と異なつて、その問題が、甚だ複雑である。

○昇進　目下朝鮮國ニ滞在中ある石井工部權大書記
官の許ヘ一昨日大書記官昇任の旨其筋より申送され
しと

○御陵墓巡回 宮内省御陵墓課の井上准奏任御用掛
は今般京都大坂兩府下及奈良地方の御陵墓巡回の命
を蒙り一昨日屬官登名を隨へ同地方へ赴きたり
○芳川府知事 芳川東京府知事よりは屬官と共に水防
の儀お付葛飾郡各村巡回として本日出立明廿六日歸

參議及各國公使領事等を招請せり又右の付横濱往復
に都合われば新橋午前二時發の臨時汽車を注文あせ
しといふ

○非職願　過日佛國より歸朝せし陸軍少將兼特命全
權公使井田謙君ハ此程非職の義を願ひ出しと聞きぬ
○牧場出張　從來農商務省の所管あり北海道札幌
縣下新冠の牧場ハ今度宮内省へ屬せられしを以て品
川農商務大輔井ム侍從藤波言忠の岡君ムこ來る廿六

○鑿鍛 昨日ハ英國女皇陛下の調辰あるを以て西町
一丁目ある同國公使館にてハ祝賀の筵を開き我大臣
故に上便船次第上京の筈ありといふ

の學士某を雇入ることふありたりとあり
シヨホーア侯 既ニ前號ヘ記載せしシヨホーア州
ハラジャノ一行は上下十八名ふて去る廿二日神戸
へ着港し直ちに上阪翌廿三日岡地造幣局天王寺住吉
ノ御堂ノ22号棟室中の島自由亭にて暫一間逗留

時事新報にも記しるべ此程別地よりの來信よ依
れば伊藤君と同時より下歐洲遊歴中の後藤象次郎君
も維也納に來り凡て二週間計り連日同所日本公使館を
伊藤後藤君主人上野景範君及びドクトル、スタ
インの四名にて何事か會議を開き毎夜深更まで及びた
其頃の評判ドクトル、スタインハ日本政府より聘
せられ近々東京より赴くやの頃ありしる追て此相談は
今又なり其代りの伯林より辛相ビスマーハ侯知

レンズ、フォン、スケイン（此人は當時歐洲有名の
文學家で曾て福澤諭吉君とも書翰の往復を爲し日本
政治と注目する學者なり）と面會せしよしは過日

行して各講壇へ

ひ工兵第一方面 々本部よて今

しぐ右等々付て
該港内の浅深及
○陸軍電報 東
本日行軍と
軍下士官ハ是迄
を許さきさりし
事ふありし由○

より一入驚愕せる
港ふ行く時へ隨分
く盛んあるにあら
張ふ注意せるより
○山良済 淡路島
よ蟠據し攝母の
今夏空軍當か

の兩階段みて混雜
人を昇降せしもの
長州萩の小畠港、
遙へ餘り度々軍艦
多く艦中の裝備

那珂港に立寄り、
さりと即ち二月廿
日ありし同船乗組
士地の人へ頗る喜
共艦内を一覽せん

新報を握りたゞ
ひ回所ふて練習す
ゆ去る十八日彼
を差立たる次第を

然獨立しく法律の實と法官の獨立は

るやうや人々の二
えざるべし然るを